

リニア開業に伴う新たな圏域形成に関する関係府省等会議

中間取りまとめ

2024 年（令和 6 年） 9 月

③ 長野県

アルプスの眺望と大自然に囲まれた長野県伊那谷地域において、長野県駅を中心とした、東京一極集中から多極分散型国家の実証モデル都市圏域を先行形成する。

実証モデル都市圏域の先行形成に当たっては、長野県伊那谷地域が有する強みである「森林資源」と「豊かな自然環境」、「再エネ創出の高いポテンシャル」を積極的に活用することで、国際競争力を有し、かつ他地域との差別化を図ることを目標とする。目標の実現に当たっては、以下の要件を充足するとともに、「新たな暮らし方・働き方の先導モデル」を形成することで、多極分散型国家の実証モデルとなる「広域中核地方圏」を構築し、そこで新たな価値の創造を目指す。

- i) 「アクセスに優れた未利用空間、関連する施設や適地を活用」して、「持続可能なゼロカーボン都市エリア」の構築を目指す。
- ii) 長野県の強みをいかした近未来に必要な実証フィールドを整備・提供し、国際的なテストフィールドを目指す。
- iii) 国際競争力の強化に資する様々な新産業のインキュベーションに貢献することを目指す。

「広域中核地方圏」の形成に当たっては、近隣県とも連携しながら、その形成によって期待されるリニア開業の社会、経済的な効果を全県下に拡大するよう努めることで、中長期的に長野県の魅力向上につなげ、長野県が直面する人口減少等の諸課題の解決につなげることにする。

<長野県が目指すビジョンのイメージ>

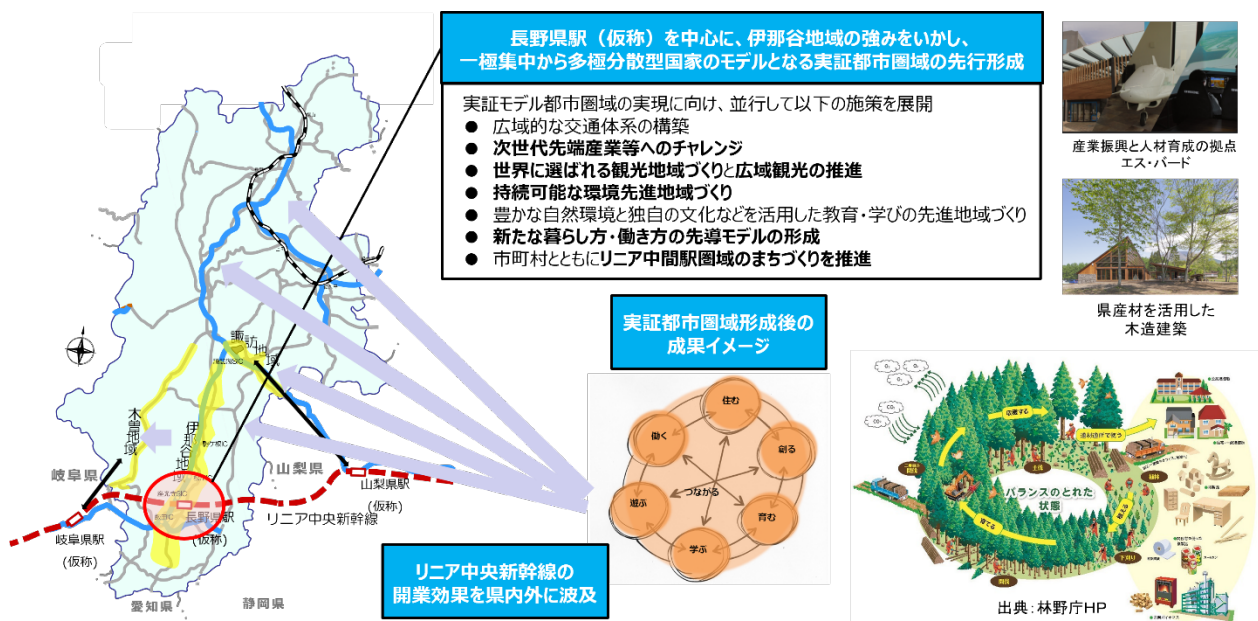


図 長野県作成